

5領域とのつながりを明確化した支援内容

	ねらい	支援内容	具体的な活動や支援の環境
(ア) 健康・生活	<p>(a) 健康状態の維持・改善</p> <p>(b) 生活のリズムや生活習慣の形成</p> <p>(c) 基本的な生活スキルの獲得</p>	<p>(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。</p> <p>(b) 健康の増進 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自助具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。</p> <p>(c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。</p> <p>(d) 基本的な生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。</p> <p>(e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時の検温、必要時の手洗いなどに継続して取り組みます。 ・個々の健康状況を把握するとともに、保護者と連携し生活リズムを整えることや、健康に過ごせるよう活動を計画し家庭とも連携し取り組みます。 ・お子さんの機能に合わせた食事提供を（関係する専門職と確認しながら口腔機能に合わせた形態の提供と機能に併せた咀嚼、嚥下で食事がとれるよう支援します。（その際には、本人、介助する大人も安心、安定した姿勢で食事がとれるよう専門職と連携します） ・偏食への対応はお子さんの状況を家庭との連携の中で把握しその取り組みは、無理の無いよう支援します。センターで給食の提供を行うことは様々なメニューを視覚、臭覚、触覚で経験することも支援として取り組みます。 ・着替えはお子さんひとりひとりの年齢や状況に応じ目標を確認します。目線に向けて、声掛けで自分の行為に気づくことや協力動作を引き出す、増やす、自立に向けて等の取り組みを行います。 ・排泄自立の取り組みはお子さんの状況を大人が先ず知り特性を踏まえ場面になれること、排尿間隔をスモールステップで家庭連携し取り組みます。 ・大人の声掛けや促し、自分で気づき取り組むなど、達成目標に応じた対応（声掛け、視覚的な掲示、構造化等）で取り組みます。 ・物を見ることから、物や状況に合わせた体や手指の使い方を活動のなかで取り入れ、生活に必要な基本的技能の向上に繋がるようにします。
(イ) 運動・感覚	<p>(a) 姿勢と運動・動作の向上</p> <p>(b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用</p> <p>(c) 保有する感覚の総合的な活用</p>	<p>(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の防、筋力の維持・強化を図る。</p> <p>(b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。</p> <p>(c) 身体の移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。</p> <p>(d) 保有する感覚の活用 保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。</p> <p>(e) 感覚の補助及び代行手段の活用 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。</p> <p>(f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作の改善および習得、筋力の維持向上を図る。活動の中で椅子や机を用いた支援においてただし姿勢の習得を目指します。 ・持っている視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活かせるよう必要に応じ他工夫を行い遊びを通し支援を行う。また眼鏡、補聴器などの補助器具を効果的に活用し支援します。 ・歩く、走る、くぐる、飛ぶ、のぼる、さらにぶら下がることや道具を使う縄を飛ぶなどを通じ姿勢を保持する、上肢下肢の運動した動きの獲得、経験を遊びの中で経験します。 ・お子さんの状況に合わせて運動あそびや親子遊びの中で、意識して身体を使うこと（粗大運動）を通し、視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有覚を統合的に活用できるように支援し、姿勢保持や力加減、バランス感覚などの向上を促します。 ・視覚、聴覚、固有感覚などを保持する感覚を統合的に経験、活用することで身体の機能だけではなく集中する力、持続する力、コミュニケーションの能力も繋げます。 ・楽しく活動ができるよう屋内、戸外の活動を取り入れ場面や季節に合わせた活動を行い経験を広げていきます。
(ウ) 認知・行動	<p>(a) 認知の発達と行動の習得</p> <p>(b) 空間・時間、数等の概念形成の習得</p> <p>(c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得</p>	<p>(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。</p> <p>(b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。</p> <p>(c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。</p> <p>(d) 数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。</p> <p>(e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。</p> <p>(f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に応じた視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用し必要な情報を収集しやすいよう、色、音、絵、写真、道具を使い認知機能の発達を促す支援を行う。 ・活動の中で情報を理解しやすいように視覚化（写真、カード、等）用いて見える化しメッセージを自ら選択肢行動につなげられるよう支援します。 ・活動プログラムを視覚的に示し（構造化し）、見通しを持ち、安心して落ち着いて自発的に行動できるように環境設定をします。 ・集団遊びでは、ルールを言葉と視覚的に示す工夫し理解し、理解して意欲的に取り組めるように支援します。さらに「またやりたい!」「少し難しそうだけどやってみよう!」という意欲に繋がるよう、自ら取り組むことを大切に、「できた!」「やった!」という成功体験が積めるようにも支援します。 ・活動参加は「見る参加」「部分的参加」「大人と一緒に参加」も肯定的とらえ、スモールステップの支援をします。